慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	欧米経済史界の趨勢と其の研究法(下)
Sub Title	
Author	木村, 荘五
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1920
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.14, No.11 (1920. 11) ,p.1631(129)- 1637(135)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19201101-0129

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

を低下す可し」。(p. 47) を上進し、反對にその種類を増加せしむる事な して單に財の數量を増加するものは其の限界

經濟學上の客観的要素分配等の問題に就ては言 値の理論の構成に入れるが吾人は此の一篇に於 ては社會の經濟的進步に於ける消費の意義を明 及せざる可く かにするに止め、そが價値に對する關係 らんとす。 かくて Patten は財の消費に基づく主観的僧 僅かに次の一論を以て此の稿を終 旅遊びに

とす。 の總價値をして漸次その總效用に近からしめん 上騰するによつて主観的價値は上進するの傾向 動的社會に於ては消費の限界的加量の價 其の見地が消費者の立場なる事を念頭に置 社會の發達に於ける各連續的時代は貨物 たで此の法則の意義を充分に評價せんに 航 D

> ten, The Theory of Dynamic Economics. p. 49.) 費者の主観的狀態に依らしむるを以て矛盾なし 値にして消費者が享樂を求め得る補充的貨物の こする者は消費者より始めざる可からず』。(Pat-信するに依て古典的經濟學者は當然に其の價值 研究を生産者より發せり。然れ共價値を以て消 ざる可からず。 びに各種の完成品に關す。 消費者の價値は家屋衣服食糧並 (cost)は價値 其は消費の單位の を決定する

litical Economy 學說に関してはMalthus and Ricardo. 第八節の抄譯なり。 此の一篇は Simon N. Patten The Development of English Thought. (1904) 彼の消費に關する著書には my. 第八節口 The Influence of the Consumption of Reconstruction of Economic Theory (1912) 等其他 (1889)經濟學の前提に関してI The Premises of Po-Wealth on the Value of 第七節は - 四 Commodities と題せり。 Consumption of Wealth The の上記の著者中第七、 Dynamic Econo-

歐米經濟史界の趨勢

こ其の研究法

7

木 村 莊 五

の流行を手寫するが如く此の境域彼の境域を轉 對し嫌焉たらざるものがある。蓋し斯學が當 關係を有する他の重要なる部面を関却せるが如 研鑚の若干を綜合し將來の研究を指導するを得 き事之である 全般の理解に必要なる既に認識せられた密接な べきである。 人は綜合に對して一層の注意を向け、 更に惟ふに特殊なる研究を繼續しつゝも亦吾 五、諸發達の綜合の必要 例へば現在に於ては資本と勞働に傾きて 正に吾人のある者は既に經濟史に 私は所詮斯學の最上の與味は 孤立せる 水 脐

> 研究に對する需求と交替する る、蓋し綜合的研究に對する欲求は常に分析的 なる彼の閑却せられ 究する事及び(三) 斯學の趣旨を完成するに必要 ち(一)現在の差迫つた問題を歴史的見地から研 ぎの二者の平衡を求むるにある事を信する、 たる方面の研究が之れであ

ら第十九世紀末に至る各時代に起つたのを見る 者の燥急な綜合に對する反動としての特殊研究 の流派の周圍に結晶した。 對するものであつて、この傾向はシュ 吾人はこの振子の振動が第十八世紀の初めか 其の最近の振動は舊歷史派經濟學 ÷E

題が何であるかに關 に廻轉する處の主題を發見するにある。此の主 問題は此の主題、他のすべての問題が其の周圍 心主題を以て爲されなければならない。 **野學の現狀に於ての主要なる綜合は一箇の中** して殆ど意見の一致が 実處で 13

歐米經濟史界の趨勢で其の研究法

第十四卷

こが出し

第十一號 二二九

れである。(三)仲介者を通ずる販賣の爲めの生産が即ち之 的發達を考へるならば吾々は之を最初は直接の 基礎的階段は次ぎの如くであらう、(一)生産者 方法により後には交換に依つて爲し遂げた人間 傾向が増加しつゝある。勿論吾人が心に歴史 のが其の周圍を真に廻轉する中心として認め 吾人の有する生産のすべての種類に對する (二)直接に消費者に販賣する爲めの生産、 くは 若し此の推論が許さるべきものであるなら が然し貨物交換の作用を以て他のすべての 質的総望の満足に擴 其の親 族に依る直 大しなけれ 接使用の爲めの生 ばならな

であるかもしれぬ。兎に角吾人は此の方向に於優れた思想であるかも、或は苦痛な努力の連續ざるを得ない。而して吾人の必要とするものはの論吾人は綜合の前に長く且つ熱心に止まら

史さ、 であつたらう、 人の社會の進步に就ての理解は最も進んだもの 即ち生産を収扱ム經濟史と、分配を取扱ふ社會 生産のみの考慮に基く綜合は殆ど完全なるも 配に對しても同様の重點を附するとしたならば 當なる内容若しくは充分に廣き範圍を與へられ Politischen Ökonomie(1910)の如き其の一つであ ける人類學者及び社會學者の未だ完璧ではな 0 ではない。 て居ないといふ事であつて、若し吾人が後に分 る。尚ほこの以上に問題たるは經濟史が未だ適 が、數篇の論説を記憶する、オッペンハイ 更に大なる綜合である。 他の者を心に置いて研究されるだらう。 ると否とに拘らず、 (Oppenheimer) & 第三に經濟思想の歴史とに分つならば吾 然し若し吾人が吾人の仕事を三部、 がかる三重の分岐が維持せら Theorie der 此の三者の中の各自は其 Reinen und - Qu

居る。 つて 早々 現は 學者に依頼せねばならぬ事である。この依屬の を省略するも、吾人は尠くさも千八百五十三年 述ぶるが如 る。而も經濟史は比較的古台科學である。 のである。 中には正に 7 早くも千八百七十八年及び九年に於て同一 れた無數の著作に關する事は今すべてこれ 又其れはこの利益と相抵る不利益を醸して が常に 濟史が 其の不利 ナマ。 の主題に關する學術的講演が爲された事 經濟史の歴史及び經濟學に對する依隔 外部 第十八世紀及び第十九世紀の始 〈第十八世紀に於て既に進んでゐた 歴史及び經濟學に、歴史家及び經濟 惱む所の苦痛の最たるものは恐らく た事を記録し得るのである。 ステルネッグ(Inama-Sternegg)によ 益の一つは専問 家の飲 からの刺戟を受ける利益は Economic History で銘を打つ 乏であ めに 旣に ある

に示され に現存する凡べての大學に於て敬へらるトに至 であつた此の主題が經濟科に包括され聯合王國 を傾到せる専門教授に依るものではないのであ るが、 八百九十年 の主題とした所が、 牛津オリエル大學に一名、マンチエスターに一 は今日 た事を知らない。勿論この主題は次ぎの引用 名、倫敦經濟學校に二名。 の學校に數名の經濟史の專任效授が居た、 同校の課程に の主なる大學の一なる劔橋は千八百七十八年の)V 「彼(カンニンガム)の生前に於て彼は自分 而も此の主題に對して彼等の全部の注意 と跳も に從へば千九百十八年に於て次ぎの英國 プライス (ピ.じ. た様に英國に於ては廣く教へられ 九十四年)に於ては歴史科の一項 經濟史を入れた、 斯學の教授は極めて少い。今エル 剣橋に於りる私の時代(千 Price)(經濟史の研究、第 私はこの以上に殖え 而も英國に於て て居 旬

は斯學普及の狀を傳ふるものである。 ーナル、三九一頁、ノオレス夫人(Mrs. Knowles) 居る。」(干九百十九年九月エコノミック、ジャ居る。」(干九百十九年九月エコノミック、ジャ

る。 研究に没頭せる數名の教授あるも 千八百九十二年ハーヴァート大學はアシュレ (Ashley) を亚米利 又恐らく何れの國に於ても最初の教授と為 今日 × ッ に見出される。 經濟學科に椅子を占むるに止まつてゐ 7 では經濟史の教授は亞米利加の四大 コラン 加に於ける經濟 爾餘の諸校には斯學の ヴィア、イエル いづれも歴史 史の最初 B 及び

於ては經濟史の講座なく斯學に關する講義亦極も、自分の信ずる處では殆どミュニッヒの以外に斯學に多くの開拓者を出せる獨逸に於てすら

めて少い。佛蘭西に至つては更に振はない。地の經濟學者及び歷史家に對する依屬は此の時代に與味を有するが故である、かくして清教時代に與味を有するが故である、かくして清教時代に與味を有するが故である、かくして清教徒革命後の英國憲政のそれの如き、發達の繼續は破壞され、歷史の全運動が害されて居る。

經濟學者は今や經濟史に與床を失ひつくあると言ふ。若し然りとせば經濟史が經濟學者の努力に對して依屬せる點よりして斯學に對する明白な損失を意味するものである。此の事はロデャース、ジェヴオンス(Jevons)、ダンバー(Dunber タウシッグ(Taussig) (註二)及びプレンターの如き經濟學者の高價なる寄與に鑑みる時に分の如き經濟學者の高價なる寄與に鑑みる時に

(註二)、千九百十九年七月二十一日、タワシッの教授日次の

如く書いた。「ダンバー教授自身の研究は個ね其の性質に於なる。彼は亦合衆國以外の經濟史上の數箇の問題殊に別なる。彼は亦合衆國以外の經濟史上の數箇の問題殊に別なる。彼は亦合衆國以外の經濟史上の數箇の問題殊には合衆國の蘭聚及び工業の發達に關し注意を排つた。尚は自分が相關の商業及び工業の發達に關し注意を排つた。尚は自分が相關の商業及び工業の發達に關し注意を排つた。尚は自分で和關の商業及び工業の發達に關し注意を排つた。尚は自分で和關の商業及び工業の發達に關し注意を排った。同時、及び和關の商業及び工業の發達に關し、其中、大學を卒業後間もなくゲンバー教授自身の研究は個ね其の性質に於如く書いた。「ダンバー教授自身の研究は個ね其の性質に於如く書いた。「ダンバー教授自身の研究は個ね其の性質に於如く書いた。」

めに、 歴史家によつて齎らされたものである」、(註三) どい べての大進步は經濟學者に依つて齎らされたも **變化で歩調を一にせざり** 歴史派經濟學が不信用になつたが爲めに、 くは史料に適用された統計的方法が失敗した爲 更に吾人がセリグ ふ論決 然らざれば本來經濟學に依つて敬養された 或は 歴史家に依つて齎らされたものではな 經濟史が生産から分配に至る興味の を許すどすれば益々此の風が深い。 マシ教授の「經濟史上のす し爲めに、 經濟學者が 若し

經濟史に興味を失ひ若しくは失ひつゝあるのでは一方研究としての經濟史に興味を失ひつゝあるか、否かは言明し難い。が兎に角經濟學者とからしての經濟史に興味を失ひつゝあるのではない。

(註三)、セリクマン教授の此の見解(干九百十九年五月六日所の私信に現ばれた)と、ソンマーラッド(Sommerlad)の「歴史家は彼が建てた所の(經濟史の)家屋の主人である」、さ云か、一プロイエア(Brauer)に依つて Kritische Sudien Wirtschaftsgeschichte(1912. p. 189)に引用された言葉とた對照する時は興味が深い。恐らく此の二つの見解は歴史家が先づ建物を建てたが、歴史派經濟學者が仕上げをした、即ち歴史家が生産を叙し經濟學者が分配を附加したさいふ事ち歴史家が生産を叙し經濟學者が分配を附加したさいふ事ち歴史家が生産を叙し經濟學者が分配を附加したさいふ事ち歴史家が生産を叙し經濟學者が分配を附加したさいふ事ち歴史家が生産を叙し經濟學者が分配を附加したさいふ事ち歴史家が生産を叙し經濟學者が分配を附加したさいふ事ち歴史家が生産を叙し經濟學者が分配を附加したさいふ事になるので、融合する様に見える、若し如上の見解にして正しくあるならば第三の時代は經濟史の専門家が斯學を其の特殊なる必要に應じて打建つてき時代である。

養成せられたる經濟學の有しない、而して近き經濟史が、近き過去の競爭的個人主義的周圍に個人が生産團體に從屬せる永急經驗を有する

(一六三五) 雑 蘇 欧米經濟史界の趨勢と其の研究法

第十一號 二三三

ある。 つた所の注意によつて並行せらるべき事勿論で 訓に對して排ひ、 らうといふことは理由ある事である。此の事 水に對する指導として背時の經驗に歸へるであ 生長 るや最近本能と情緒の分野に於て心理學者の教 去の特色である協同と制限の方向に對し 將來の經濟學者にとつて特殊なる或者を供する は疑なき事である、 つゝある傾 且つ之れに高僧なる補遺を行 向に伴ひ、 換言せば、 經濟學者は益々將 遠台中世 の過 12

雑誌」は確に無い)及び如何にして經濟史が成 乏、經濟史術語解 せしかを語る歴史の飲乏せ する雑誌の缺乏、 蓋し經濟 史の 依圏性は經 典の缺乏、純粹な経濟史に (今も「社會及び經濟史の季刊 濟史百科辭 る事に依るのであ 典の 關 İ

千八百七十九年 イ ナ ~ ス ラ N ネ ッ 11 は 言 2

> のみである。 る。 科書と高等な専問的な精細な無數の研究がある ないのである、 年間の終末に方つても此の言葉は尚は眞理であ た「終極の目的は領土と國家に關係なく書か 史も書かれてゐない、 たる人類の經濟史であつた」と。 = . k, 吾人は普遍的性質の經濟史書 ッツ (Brodnitz) は、 一國殊に英國に闘する數多の数 と誌した。 倘は未だ一つの經濟 千九百 而して最近十 を一つも持た 十年ブ

る。 の經濟的歷史の時代なのである。 間に於て如上の暗示の主要なる價値は他 な比較研究に基く發生的見地 は經濟現象の更に完全なる分析を伴ひ且 せる諸研究に對し 既に述べる處にして疑ふべからずさ 指導的影響を與ふべき事であ から書かれ 恐らく せ の分存 た人類 つ適當 此の瞬 ば、

若し經濟史が 史學及び 經濟學に 依屈する 7 Ċ

利仲長が、 を知らんと欲する人々によつて興味を以て迎 明を助け、 及び過去の經濟的發達の事 と教養との平衡はこれを放棄しないのである。 事に在る、但し二つの本來の主題 の救濟策は、 る事が悉く を其 から。 し歴史家は經濟的分析の新形式に就 のであ 史研究法に就いて殆ご知る處無きが 理解を缺くの傾きがあり、經濟學者は最近の のみならず、 れて居る のにとつて斯學の研究が興味を喚起しつゝあ 3 自身に 凡そ經濟史の諸問 經濟史の研究を刺戟せるは恰も中産 將來の結果を指摘するを得る諸事質 諸市及び諸國に於ける勞働 今や歴史の經濟的解釋を重 此の場合經濟 の不利 特に主張すべき充分なも 勞働階級の擡頭に注意せるもの に働 質 題は更に獨 史を獨立専問 たさした 現在の状態の説 に於ける重 なら 立的な地 如くであ 10 著の権 んずる のがあ ての其 j ~

> ける經濟史の需要は、古き歴史又び現在の經濟しと同斷である。又商業學校及び中等學校に於階級の勝利が、憲法及び政治史の研究を刺戟せ 的必要に答ふるを得ざるが 12 め で ある

つて補 る事、編年的及び劃期的研究が發生的研究に依する他の諸研究に依つて平衡せらるべきものなは經濟史の内容の更に一層完全なる分析を反照 働の歴史に殊に重さを置かれたる事、 史家及び經濟學者の手裡にある經濟史の指導は を附 利用する 者の反目次第に大を加へたるがため資本及び勞 時不振の後に於て、 されば吾人は其の結論に於て、現在の傾 しつゝある事、過ぐる數年間に於て勞資二 助せらるべき事、 さなる ~ に其の分野に於ける専問 經濟史に更に大なる力點 今日までも優秀なる歴 等を誌 し得 此の傾向 る ので

欧米經濟史界の趨勢と其の研究法

第十四卷

第十一號 三五五